

第1章 実践事例集の活用について

1 「命の大切さを実感させる教育プログラム」実践事例内容一覧

	番号	学年	テーマ	主な学習・体験	実践の参考となる教育プログラムモデル
実践事例	1	小学校 第6学年	人は一人では生きられない	生き物として、他の「生き物」と一緒に生きている私について考える。 人として「人」と一緒に生きている私について、学校行事をとおして考える。	.
	2	中学校 第3学年	今生きていること - 守られてきた自分たちの命 -	阪神淡路大震災の当時の様子を、保護者や教師から聞き取る。(2学年時) 修学旅行で訪れる沖縄の文化や歴史を学び、文化発表会で発表する。	.
	3	中学校 第2学年	きずなとことば	インターネット上の書き込みを体験し、問題点に気づく。 相手の心情を理解しながら、自分の思いを伝えることの大切さを学ぶ。	.
	4	高等学校 第1学年	生かされていることへの感謝 - 「運命」から「使命」へ -	文学作品や農業実習等をとおして「生かされている」ことについて考える。 支えてくれた人のおかげで今があり、生きていることに感謝の気持ちをもつ。	. .
	5	特別支援学校 小・中・高等部	「人とのつながり」から考える「命」	ルールを守って仲良く遊ぶ。 友達のよいところを認め、他人を思いやる気持ちをもつ。 相手の立場から相手の気持ちを考える。	. .

(参考)教育プログラムモデル: 誕生の喜びと感動 成長の支援への感謝 限りある命の尊さ 理解し合う心に支えられた命 尊い命を守るために

2 「教育プログラム」の使い方のポイント

小学校事例6

「『命の大切さ』を実感させる教育への提言」
第部 実践編 教育プログラムモデルの
項目に沿って実践をまとめています。

1 テーマ
かけがえのない命・つながる命

2 実践のねらい

身近な人との関わりをとおして、老いや病にふれる体験や、死の悲しみにふれる体験などから、命の有限性や死の普遍性・絶対性に気づき、自他の命のかけがえのなさに思いをはせる。さらに、死の悲しみや苦しみに向き合う人々の思いに接し、人とのつながりを感じ、強く生きようとする心について考える。

3 テーマ設定の理由

(1) 本校の概要と児童生徒の

本校区は、淡路島の北部の自然豊か
アクセスは便利になったが、過疎化には
子どもたちの暮らしぶりも変わり、豊
もたちとそれほど大きな差はない。子ども
の遊びの形態も変化し、アレシ、ゲーム、
パソコン等が中心となり、「命」を軽視した
様々な情報刺激もあふれている。また、農
村地帯であるため3世代同居家庭が多く、
祖父母を含めた地域の老人と接する機会
は比較的多くあるが、高齢者はかつての
ように人生の終末を自宅では迎えること
は少なく

各学校の実践に至った経緯
や背景・児童生徒の実態に
ついて記載しています。

大橋の開通により阪神間へのア
は35名までに減少している。
非常に少なくなり、都会の子
どもたちと

(2) 指導のポイント

【感動の体験】

・死というものを見つめ、死
自分の命は両親の願いの結晶

【感性を育む】

・遺された者の悲しみを通して、自分
実感させる。

【想像力の育成】

・すべての生き物には寿命があり、自分

実践のねらいを達成するために、どの
ような感動の体験をするか、子どもた
ちの感性や想像力にどのように働き
かけるかなどの「指導のポイント」を
記載しています。

せる。
っていることを

4 事前

(1) 先生の準備

・授業の中だけでなく
・教員自身の死に対する思い
・家庭や地域に学習についての
・現在悲嘆にある子どもが存
別指導を充実させる。

・テーマに関連した資料や情報の収集
・子どもたちの状況の把握 等
実践に先立って必要な教師の準備について記
載しています。

り。
する。
事前事後の個

(2) 教育課程上の位置づけ

・国語
・理科（植物・生き物等の分野）
・体育（保健分野）
・家庭
・道徳
・総合的な学習の時間

道徳・特別活動・教科・総合的な学習の時間
といった教育課程上の位置づけや単元構想に
ついて記載しています。

(3) 子どもたちの準備

・自尊心を高める体験をする。
・デジタルカメラの使用技術を習得

実践を行う前に、学習や体験の内容について、
子どもたちに興味や関心を抱かせ、主体的に
取り組めるようするためにはどのような準備
が必要かについて記載しています。

(4) 家庭・地域との連携

・地域の人々に対し、アンケート調査や聞き取り学習を実施することについての理解を求める。
・特別養護老人ホームで継続的に体験学習ができるように依頼する。
・祖父母、その知人、家族に対し学習のねらい

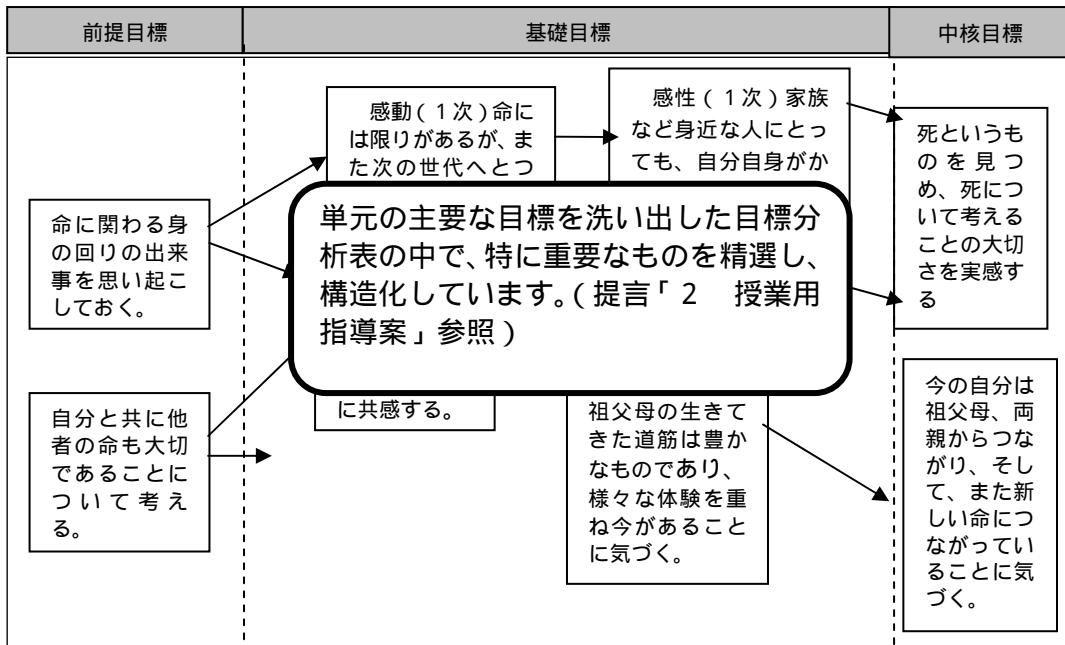
事前に家庭や地域へ依頼す
る事項や配慮すべき事項に
ついて記載しています。

第1章 実践事例集の活用について

6 目標分析表

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
事前	自尊感情を高める体験をする。	自他の命の存在に気づく。	命に関わる身の回りの出来	自分と共に他者の命も大切	
1次 (5時間)	「命」をテーマに写真を撮り、話し合う。 家族や大切な人、またはペットを亡くした体験を出し合う。	縦軸に学習の内容を、横軸に3つの指導のポイント「感動の体験」「感性を育む」「想像力の育成」を観点として配し、子どもたちにどのような力を身につけさせたいのかという目標を明確にしています。(提言「2授業用指導案」参照)			一つの命には限りがあるが、その命はつながっていることを理解させることができたか。
			つながりを感じる。	を実感する。	

7 目標構造図



8 事前の教員研修と指導の概要

(1) 事前の教員研修

研修内容	
a	自尊感情を高める体験をする。 <提言> ・『わたしはわたしが好きです。なぜなら』 ・『ここがあなたのいいところ』
b	自己再発見の体験をする。 <提言 P68> 「私の人生の振り返り」
c	医療施設や老人福祉施設等で行われて ・老・病・死と向き合う人々の様々な考え を交換する。

第1章 実践事例集の活用について

(2) 指導の概要

研修内容	
事前	自尊感情を高める体験をする。 (1時間)
1次 (5時間)	<p>「死」を見つめる</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 季節の変化による生き物の様 2 校庭に出て子どもたちにデジ 3 家族や大切な人、ペット等を 4 「北朝鮮拉致被害者の会 有 <p>学校の状況、子どもたちの実態や発達段階に応じて、計画・実施された内容を、指導の概要として示してあります。</p>
	<p>自分と祖父母の伝記を作る</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 家族から聞き取ったりして自分の 2 自分の祖父母の今までの人生の道筋を聞き取り、まとめる。 3 ゲストティーチャーで来てくれた祖父の今まで生きてきた道筋を聞く。 4 聞き取った自分の祖父母の伝記を作る。 5 できあがった伝記を発表し合い、人生の豊かさと多様さを感じ、誰の人生もかけがえのない大切なものであることを実感する。 <p>指導実践の内容について詳細に記載している頁数を示しています。</p>
2次 (10時間)	<p>人生を振り返る。</p> <p>教員研修 a</p> <p>教員研修 b</p>

9 指導実践

【展開】

	学習活動	指導上の留意点
導入	<p>1 今の自分にとって大切な人やペット等を想い浮かべ、みんなに紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わたしはお母さんが大好きで、一番大切な人です。」 <p>子どもたちの反応(発言・感想など)についても記載しています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の説明例 ・板書例 <p>など実施した授業の内容や指導上留意すべき点について記載しています。</p>
展開	<p>・先生にもそんな悲しいことがあったんだ。</p> <p>・もし、今、先生のお父さんが生きていたら先生は何をしてあげますか。</p> <p>親が、我が子を亡くした悲しみとはどんなものかを感じとってください。</p> <p>・親が子どもを亡くすと、こんなに悲しいんだ。ぼくのお母さんやお父さんも同じなんだろうと思う。</p> <p>・このお父さんは、奥さんを亡くして、また子どもを亡くしたんだ。心はぐちゃぐちゃになってしまうだろう。</p>	<p>「先生は交通事故により、突然にお父さんを亡くしました。お父さんは、大学卒業直前の弟に最後の仕送りをした後に事故にあいました。その後、しばらく電話のベルが怖かったです・・・。」</p> <p>子どもたちの気づきを促したり思考を深めたりするための教師の主要な発問を記載しています。</p>

